



営農NEWS



水稻の育苗管理の注意点について

今年は寒い冬が続いて、桜の開花もやや遅れていますが、3月後半に入ってからようやく春の気候となっています。このまま例年どおり、田植えの準備を始める時期となるでしょう。

水稻の育苗を始めるにあたって、種子や培土、育苗箱などの準備については、「営農NEWS 第2253号（平成26年3月5日発行）」の「水稻育苗の準備にあたって注意すること」を参照して行ってください。

ここでは、播種から育苗中における苗管理の注意点について紹介します。

1 播種

播種は、田植えの予定日より逆算して、コシヒカリで約20日前を目安に始めましょう

播種量は、育苗一箱あたり催芽粃で170～200g（乾粃で140～160g）とし、均一に薄く蒔きましょう
播種後の覆土前に十分な灌水を行い、覆土後に灌水は行ないません

2 出芽

出芽の管理は

積重ね法では 温度28～30℃で2～3日間

平置育苗法では 昼間30℃以下、夜間15℃以上で4～6日間とします

なお、平置育苗法では根上がりを防ぐため覆土をやや厚めにし、保温性に優れた被覆資材をべたがけします

注1 31℃以上の高温で、もみ枯細菌病などが発生しやすくなるので、温度管理は特に注意しましょう。

注2 温度不足で出芽に長時間かかり過ぎると、苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

3 緑化

白い芽が出揃ったら、被覆資材を除き、2～3日間かけて徐々に光にあてましょう

苗は急激な温度変化に弱いため、昼間20～25℃、夜間15～20℃とします

緑化直後に晴天の場合は、遮光資材などで一時的に遮光を行いながら慣らしていきましょう

注1 緑化初期に強い光にあてたり、暗所日数が長すぎて苗が伸びすぎると白化しやすいので注意しましょう。

4 硬化

本葉1枚くらいになったら、その後は昼間20～25℃、夜間10～15℃で10～14日間を目安に適切な管理をしましょう

灌水は午前中に行い、日中の高温時や夕方には避けて、夕方にはやや乾く程度の灌水にします

注1 水のかけ過ぎや換気不足などは、徒長や発根不足の原因となりますので注意しましょう。

注2 育苗ハウス内の最低温度が10℃以下になると、ピシウム菌やフザリウム菌による苗立枯病が発生しやすくなるので、夜温の低下に注意しましょう。

注3 高温（35℃以上）多湿になると、リゾープス菌などによる苗立枯病が発生しやすいので注意しましょう。

注4 2葉期頃から移植期にかけて、低温が続いた後に急に高温になるとムレ苗が発生しやすいので、低温時には土壌をやや乾燥気味にして保温に努めましょう。

5 田植え前

田植え前になったら、苗を外気に十分慣らしましょう。

草丈13cm前後で、葉数2.2～2.5葉の生育が揃い、根張りのよい、がっちりした苗に育てましょう

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040